

## (1) 学校の概要、目標及び計画

### ●学校の目標及び計画

本校は、『専門知識・技術、そして人間尊重を兼備し社会に貢献する人材の育成』を建学の精神として、1895年、福田馬太郎により「製図夜学館」として創立されて以来、一貫して工業社会に人材を輩出する技術者教育の場として運営されてきた。創設者による「知識・技術・精神を備えた、時代が求める技術者を養成する」という教育理念のもと、工業社会黎明期の製図教育から、高度成長期の中堅技術者教育を経て、現代のIT社会や環境重視社会、あるいは技術社会の構造的な変革や入学者の多様化に至るまで、様々な社会的要請に応えるべく、学科編成や教育内容を変遷させつつ今日を迎えている。一方では変わらぬものとして、技術が持つ原理や原則の確実な習得と、それを生かした創意工夫を重視することを通じて、学生個々の資質を生かすとともに、さまざまな工業社会の局面に対応できる、創造性や柔軟性を備えた社会的な適応能力豊かな人材育成を目指している。このような教育理念に基づく教育活動をより有効かつ確実なものとするため、中長期的視座で包括的な学校運営方針を「中期計画(5ヶ年計画)」として策定し、具体的な活動計画として、事業計画を年度毎に策定している。

### ●学校の特色

専門学校としては比類ない歴史を持ち、業界で活躍する卒業生は極めて多い。それらを統括する校友会活動も活発であり、西日本全域を中心に各支部を持つ。また、専任教員は元より多様な講師陣と言った専門人材を擁しており、その豊富な専門性や人間性が本校教育の源泉である。同時に業界や地域との関係も深く、学生の視野の拡張に大きく影響を与えている。

### ●校長名：福田益和（ふくだますかず）

### ●所在地：大阪市北区天満 1-8-24

### ●連絡先：代表電話（06）6352-0091

### ●学校の沿革

明治28年 創立（大阪市西区本田町）、初代校長に福田右馬太郎。わが国最初の製図学校「製図夜学館」を設立。大阪市における工業補修教育のさきがけとなる。

明治31年 大阪府より私立学校設立認可を取得。

明治40年 遠隔地にある篤学者のための技術教育を目指し通信教育を開始。

明治43年 初代校長死去により、福田萬亀雄校長就任。

大正7年 現在の北区天満1丁目9番27号（旧、川崎町）に移転。

昭和7年 校名を大阪製図学校と改称。

昭和20年 戦禍により校舎焼失。仮校舎にて授業を続ける。

昭和26年 機械工学科および建築学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。  
機械科および建築科を新設、中卒修業年限3ヵ年。

- 校名を大阪製図専門学校と改称。
- 昭和29年 建築士法施行により卒業生の2級建築士受験資格について、大阪府知事の認定を取得。
- 昭和34年 労働省技能検定試験の受験資格について労働大臣指定を取得。
- 昭和39年 校名を大阪工業技術専門学校と改称。
- 昭和40年 学校法人となる。
- 昭和43年 II部に建築構造専科を新設。(63.3.31 廃止)
- 昭和45年 5階建校舎増築。
- 昭和46年 II部に環境設備科および女子住宅デザイン専科を新設、高校卒修業年限1カ年。  
II部女子住宅デザイン専科。(52.3.31 廃止)
- 昭和47年 I部に女子住宅デザイン専科を新設、高校卒修業年限1カ年。(63.3.31 廃止)  
II部に環境設備科を新設、高校卒修業年限2カ年。  
一級建築士受験資格につき建設省の認定を取得。
- 昭和48年 2号館4階建校舎新築。  
労働省「無料就職斡旋」(現紹介所)開設認可。
- 昭和49年 I部に環境設備科を新設、高校卒修業年限2カ年。
- 昭和50年 3号館5階建校舎新築。
- 昭和51年 校長に福田道章就任。  
専修学校(工業専門課程)認可。
- 昭和52年 2級管工事施工管理技士受験資格につき建設省の認定を取得。
- 昭和54年 4号館4階建校舎新築。
- 昭和57年 3号館5階建校舎増築。
- 昭和59年 2級建築施工管理技士受験資格につき建設省の認定を取得。
- 昭和62年 労働省高年令労働者等受講奨励金の教育訓練指定校として労働大臣指定(II部女子製図科、機械製図科)。
- 昭和63年 5号館5階建校舎増築。
- 平成 元年 I部にCAD製図科を新設、高校卒修業年限1カ年。
- 平成 2年 環境設備科(I・II部)を建築設備科に学科名を変更。  
1級建築施工管理技士(建築学科)・1級管工事施工管理技士(建築設備科)受験資格につき建設省の認定を取得。
- 平成 3年 1号館5階建校舎増築。  
二級建築士・木造建築士(建築設備科)受験資格につき府の認定を取得。
- 平成 4年 理事長に福田益和、校長に宮秋利厚就任。
- 平成 7年 卒業生に「専門士」の称号を与える(文部省告示による)。  
機械工学科(I・II部)を機械システム設計学科に学科名を変更。  
I部にメカトロニクス設計学科を新設。  
創立100周年を迎える。
- 平成 8年 新1号館6階建校舎新築。

- 平成 9年 I部に建築総合学科を新設、高校卒修業年限3ヵ年。  
II部に建築CAD科を新設、高校卒修業年限1ヵ年。
- 平成10年 6号館6階建校舎新築。  
I部に機械学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。  
I部に建築実務専科を新設、高校卒またはこれと同等以上の学力があると校長が認めた者で、2級建築士の受験資格を有するもの。修業年限1ヵ年。
- 平成11年 I部に建設土木学科を新設、高校卒修業年限3ヵ年。  
「ISO14001（環境マネジメントシステム）」の認証を取得。
- 平成12年 校長に村本嘉雄就任。  
II部に管工事設備科および機械技術科を新設、高校卒業修業年限1年。  
姉妹校として大阪リハビリテーション専門学校を設置。
- 平成13年 I部にインテリアデザイン学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。
- 平成14年 I部に建築技能学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。  
I部CAD製図科をCADテクノロジー科に学科名を変更。
- 平成15年 I部に環境土木学科を新設。高校卒修業年限2ヵ年。  
I部機械学科をロボット・機械学科に学科名を変更。
- 平成16年 校長に田中隆就任。
- 平成18年 「プライバシーマーク使用許諾証」の認定を取得。
- 平成20年 校長に福田益和就任。  
新3号館5階建校舎新築。  
I部建築学科を建築ものづくり学科に学科名を変更。  
I部建築技能学科を大工技能ものづくり学科に学科名を変更。  
I部ロボット・機械学科をロボット・機械ものづくり学科に学科名を変更。  
I部建築実務専科を建築士専科に学科名を変更。
- 平成22年 I部建築ものづくり学科を建築学科に学科名を変更。  
I部大工技能ものづくり学科を大工技能学科に学科名を変更。  
I部ロボット・機械ものづくり学科をロボット学科に学科名を変更。  
I部インテリアデザイン学科をインテリア学科に学科名を変更。  
I部に建築設計学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。  
I部に建築実務学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。  
I部に建築設備学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。
- 平成23年 I部ロボット学科をロボット・機械学科に学科名を変更。  
I部インテリア学科をインテリアデザイン学科に学科名を変更。
- 平成26年 II部フレックス建築学科（単位制）を新設、高校卒修業年限2ヵ年。
- 平成27年 I部建築設備学科を設備環境デザイン学科に学科名を変更。  
創立120周年を迎える。
- 令和元年 『高等教育の修学支援新制度（教育費負担軽減）』対象校として認定を受ける。

## (2-①) 教育方針及び目的

### ●教育方針

学則第1条に示された教育目的である「実務に適応しうる能力」を養成するための、教育方針を以下に示す。専門技術に関わる教育については、それぞれの技術がもつ基本原理を明らかにし、実務との関連を示しながら体系的な理解をさせるとともに、設定された達成水準を確実に身につけさせるための演習・実習を重視する。それと同時に技術を実務の場で発揮するための土台となる、社会性の獲得や職業観の涵養については、キャリアデザインの時間をはじめ、各科目レベルにおいても課題研究・グループ作業・プレゼンテーション・ディベート・振り返り等の要素を取り入れ、実務での業務遂行に必要な汎用的技能を会得させる。さらに、実務の現場である社会・企業・職業人との接触を重視し、企業研修や様々な社会活動等、学業と実務の繋がりが実感でき、社会に開かれた教育活動をさらに拡張させる。

### ●教育目的

本校は、専門知識・技術の修得、資格の取得はもちろんのこと、学び・考え・創造し・コミュニケーションすることの根本である「ことばの力」を強化し、それを基礎として技術者の姿勢・感性・考え方である「技術者マインド」を自身の軸として身につけた技術者を育成することを目的とする。本校では、そのような技術者を【真の仕事力】をそなえた技術者と定める。

### ●学科の教育方針

本校の建学の精神、教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに則り、各学科はその専門性に応じた教育方針を策定する。以下、各学科の教育方針を教育目的とカリキュラム編成に分けて記す。

## 【I部建築学科】

### 1. 教育目的

建築学科は、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。本学科は昭和50(1975)年頃より他学科に先駆けて、「真の仕事力」を育成する教育をはじめている。設計製図では、「設計教育を通じて人間教育」のコンセプトのもと、設計の知識・技術だけでなく、プレゼンテーション力やコミュニケーション力・創造力・マネジメント(チーム)力を養う教育を行ってきた。それを広い意味での設計力ととらえ、その大切さを理解し・身につけ・強化しつづける意識を育成してきた。その意識を「設計マインド」とし、現在の「技術者マインド」「真の仕事力」に継承されている。

### 2. カリキュラム編成

建築学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、

建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習を通して設計や施工等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図と建築製図は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。1年次後期からは、基幹科目、必修科目に加えて、選択必修科目から設計専攻・施工専攻・設備専攻の3専攻のいずれかを選択し、それぞれの専門の基礎を学ぶ。2年次からは設計専攻は意匠コースと構造コースに、施工専攻は管理コースと技術コースに分かれ、設備専攻は設備コースとし、さらに専門性を深める。2年次後期には各専攻領域に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。

## 【インテリアデザイン学科】

### 1. 教育目的

今日、日本ではフローからストックの時代へと変わり、新築よりもリフォームやリノベーションの需要が高まっておりインテリアデザインもリフォームなどを含めてこれまで以上に幅広い知識と技術が要求されるようになってきている。インテリアデザイン学科は、建築およびインテリアデザインのプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

### 2. カリキュラム編成

インテリアデザイン学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習を通してインテリアデザイン（インテリアコーディネート・インテリアプランニング・色彩計画等）及び建築設計等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図、建築製図、デザイン基礎実習、スペースデザイン等は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。専門科目（必修科目・選択科目）では1年次前期から2年次後期まで、インテリアデザインの知識・技術を段階をおってその専門性を深める。2年次後期にはこれまでの学びと関心に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。

## 【大工技能学科】

### 1. 教育目的

今日、建築生産の工業化が進み建材のほとんどが工場加工され、現場ではシステムに則って組み立てる作業が主流となり、生産の合理化と引き換えにもの本質をとらえたものづくりができる現場技術者が少なくなっている。大工技能学科は、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、大工技能を身につけることを通して、ものづくりの姿勢を身に

つけ、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

## 2. カリキュラム編成

大工技能学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習を通して大工技能（道具の扱い方・木材加工技術・規矩術・木造軸組みの組立等）及び建築設計等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図、建築製図、建築技能実習は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。専門科目（必修科目・選択科目）では1年次前期から2年次後期まで、大工技能の知識・技術を段階を追ってその専門性を深める。2年次後期には各自の専攻領域に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。

## 【建築設計学科】

### 1. 教育目的

建築設計学科は、社会人や大学・短大・専門学校卒生、その他高校卒業後、様々な経験をしてきた方々（リカレント生）を対象とする学科であり、建築設計を中心に建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

### 2. カリキュラム編成

建築設計学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、講義・実習を通して意匠設計や構造設計等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図と建築製図は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。1年次後期からは、基幹科目、必修科目に加えて、選択科目から意匠設計や構造設計、木造設計等の専門の基礎を学ぶ。さらに2年次前期からは選択必修科目で意匠設計と構造設計の専門に分かれ、さらに専門性を深める。2年次後期には各専攻領域に応じたパーソナル・デザイン・プログラム（卒業制作）をおこない2年間の学びの集大成とする。なおこのパーソナル・デザイン・プログラムは建築系学科における卒業制作に相当するが、作品づくりそのものに重点を置くのではなく、リカレント学生それぞれの資質やこれまでの経験を振り返り、自分の将来の仕事や理想とするライフスタイルへとつなげるために課題を設定し制作を行うことが目的となっている。

## 【ロボット・機械学科】

### 1. 教育目的

ロボット・機械学科は、ロボット・機械に関わる工業技術者として必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。本学科は、明治28（1895）年に機械製図の学校として創設された製図夜学館の本流であり、その誇りと精神を受け継ぎながら常に最新の工業技術教育を行ってきた。今日、分野横断的に技術融合は広範に進み、益々その流れは加速し、技術者に要求される専門領域も広がっている。そのような要求に応えるために、機械だけでなく電気・電子・情報など広い領域を学び、それを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができる人材となるよう教育を行う。

### 2. カリキュラム編成

ロボット・機械学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、必修科目、選択必修科目及び選択科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分ける。選択科目は、機械・電気・電子・プログラム等、あらゆる工業技術者に必要な専門基礎知識の修得を目指す。必修科目は、実習・演習を通して機械設計や製作等の知識・技術の修得を目指す。選択必修科目は、1年次後期からは、必修科目、選択科目に加えて、選択必修科目からロボット機械専攻と電気機械専攻の2専攻のいずれかを選択し、それぞれの専門の基礎を学ぶ。さらに2年次からはロボットコース、機械技能コースに、電気コースの3コースに分かれ、さらに専門性を深める。2年次後期には各専攻領域に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。必修科目と選択必修科目は、知識・技術の修得だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。

## 【建築士専科】

### 1. 教育目的

建築士専科は、二級建築士資格試験の受験資格のある者を対象に、国家資格である二級建築士の免許取得とともに、社会や建設業界で必要とされる知識や技術の修得をするよう教育を行う。また、資格試験の合格のみを目指すのではなく、学びを深める中で「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう厳しく教育を行う。

### 2. カリキュラム編成

建築士専科では、二級建築士資格試験およびその他資格試験の合格、並びに社会や業界で必要とされる知識や技術の修得をするよう、必修科目及び選択科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。必修科目では、二級建築士資格試験の受験対策に重点をおく。各科目とも講義理解・課題演習・復習を徹底し、繰り返し模擬試験を実施する。その中で学生自身がそれぞれの問題・課題に自主的に取り組む姿勢をつくり、全員が二級建築士資格試験合格をめざせるよう指導する。選択科目では、二級建築士以外の資格試験（2級建築施工管理技士【学科】、建築積算士補等）の合格をめざし、その他実務にかかわる教育を行い、資格取得と共に「真の仕事力」を強化して卒業をめざす。

## 【Ⅱ部建築学科】

### 1. 教育目的

夜間に建築を学ぶ人たちのための学科である建築学科Ⅱ部は、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよくかつ効率的に学び、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

### 2. カリキュラム編成

建築学科Ⅱ部では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習・実習を通して計画・設計や構造の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図と選択必須科目であるプランニングは、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。1年次前期から2年次後期まで、段階をおって建築の知識・技術の専門性を深める。

## 【フレックス建築学科】

### 1. 教育目的

フレックス建築学科Ⅱ部は、建築学科Ⅱ部のカリキュラムの中から、一定の単位取得を卒業条件としている単位制学科であり、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよくかつ効率的に学び、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

### 2. カリキュラム編成

フレックス建築学科Ⅱ部では、卒業認定のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習を通して計画・設計や構造の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択自由科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図と選択自由科目であるプランニングは、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。2年から4年の間に、各自のペースで科目履修し、段階をおって建築の知識・技術の専門性を深め卒業をめざす。



## (2-②) 各学科の教育

### ●入学者選抜の方針

大阪府専修学校各種学校連合会から出されているAO入試の運用基準を始めとし、近畿高等学校進路指導連絡協議会からの要望を取り入れた内容（入学者選抜及び出願書類等について）を以って、入学者の選抜を行う。また、社会人や外国人留学生に関しても柔軟かつ積極的な受入れ体制を取っている。

### ●学生募集要項（下記、リンク先アドレス）

- ・入試方法、入試日程等

<https://www.oct.ac.jp/requirements/admission>

- ・学費等

<https://www.oct.ac.jp/requirements/expenses>

### ●総定員・入学者数・在学生数（基準日：令和5年5月1日、学校基礎資料調査より）

【I部建築学科	（修業年限2年）	総定員 240名・入学者数 81名・在学生数 183名
【インテリアデザイン学科	（修業年限2年）	総定員 80名・入学者数 36名・在学生数 69名
【大工技能学科	（修業年限2年）	総定員 80名・入学者数 27名・在学生数 64名
【建築設計学科	（修業年限2年）	総定員 60名・入学者数 25名・在学生数 58名
【ロボット・機械学科	（修業年限2年）	総定員 80名・入学者数 24名・在学生数 54名
【建築士専科	（修業年限1年）	総定員 50名・入学者数 15名・在学生数 15名
【II部建築学科	（修業年限2年）	総定員 100名・入学者数 46名・在学生数 109名
【❖フレックス建築学科	（修業年限2年）	総定員 40名・入学者数 0名・在学生数 5名
❖ [募集停止中]		

### ●カリキュラム、及び進級・卒業の要件、単位の算定・履修方法、及び試験等

（下記、リンク先アドレス）※2023年度学生便覧抄録

<https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2022/06/c6317fc43680e473ef4943019f8ff116.pdf>

### ●各種資格等の試験合格者数（令和3年度実績）

・2級建築士(学科)	受験者数 33名・合格者数 29名・合格率 87.9%
・2級建築士(製図)	受験者数 29名・合格者数 19名・合格率 65.5%
・建築大工技能士(2級)	受験者数 29名・合格者数 15名・合格率 51.7%
・建築大工技能士(3級)	受験者数 39名・合格者数 24名・合格率 61.5%
・建築配管技能士(3級)	受験者数 18名・合格者数 12名・合格率 66.7%
・建築積算士補	受験者数 39名・合格者数 32名・合格率 82.1%
・ビジネス能力検定(3級)	受験者数 85名・合格者数 55名・合格率 64.7%

※但し、2級建築士(学科・製図)の試験結果は建築士専科生の実績である。

●卒業生数、卒業後の進路状況 ※令和4年度実績

【Ⅰ部建築学科	(卒業生数 79 名)】	進学者数 8 名・就職希望者数 71 名・就職者数 64 名
【インテリアデザイン学科	(卒業生数 26 名)】	進学者数 5 名・就職希望者数 21 名・就職者数 19 名
【大工技能学科	(卒業生数 32 名)】	進学者数 1 名・就職希望者数 31 名・就職者数 30 名
【建築設計学科	(卒業生数 25 名)】	進学者数 2 名・就職希望者数 23 名・就職者数 20 名
【ロボット・機械学科	(卒業生数 35 名)】	進学者数 2 名・就職希望者数 33 名・就職者数 30 名
【建築士専科	(卒業生数 33 名)】	進学者数 0 名・就職希望者数 33 名・就職者数 31 名
【Ⅱ部建築学科	(卒業生数 46 名)】	進学者数 0 名・就職希望者数 18 名・就職者数 17 名
【フレックス建築学科	(卒業生数 5 名)】	進学者数 1 名・就職希望者数 0 名・就職者数 0 名

※既就職者(別途):Ⅱ部建築学科 28 名、フレックス建築学科 3 名

※各学科の進学者の多くは内部(建築士専科)への進学となる。

《主な就職先会社名》 ※令和4年度実績

(株)浅沼組、旭化成住宅建設(株)、(株)安藤・間、青木あすなろ建設(株)、(株)アスコラル構造研究所、(株)小笠原設計、(株)UR リンケージ、鹿島建設(株)、イオンディライト(株)、(株)大彦組、三機工業(株)、住友不動産(株)、(株)ピーディーシステム、大和ハウス工業(株)、鉄建建設(株)、(株)鳥羽瀬社寺建築、(株)内藤建築事務所、パナソニックアーキスケルトンデザイン(株)、(株)マニエラ建築設計事務所、(株)フジタ、(株)UR リンケージ、(株)ラフト、和光ホームズ(株)、関電ファシリティーズ(株)、甲南電機(株)、カワサキロボットサービス(株)、(株)京製プレジジョン、ダイハツ工業(株)、(株)椿本カスタムチエン、住友精密工業(株)、(株)フジキン、大阪府、一般社団法人近畿建設協会、一般財団法人日本建築総合試験所、その他多数

### (3) 教職員

●教職員数、及び教員&講師(担当学科) ※令和5年5月1日時点

【専任】

- ・校長 1 名、及び教員 17 名(以下、重複して担当)
  - (Ⅰ部建築学科 12 名、インテリアデザイン学科 7 名、大工技能学科 7 名、建築設計学科 8 名、Ⅱ部建築学科 6 名、フレックス建築学科 6 名、ロボット・機械学科 3 名、建築士専科 4 名)
- ・事務 11 名

【非常勤】

- ・講師 83 名(以下、重複して担当)
  - (Ⅰ部建築学科 38 名、インテリアデザイン学科 18 名、大工技能学科 24 名、建築設計学科 17 名、Ⅱ部建築学科 17 名、フレックス建築学科 17 名、ロボット・機械学科 15 名、建築士専科 2 名)

## (4) キャリア教育等

### ●キャリア教育への取組状況

「キャリアデザイン」の時間を活用し、自らの職業観や勤労観といった概念の形成、コミュニケーション能力、ビジネス常識等、職業人として適応するための取り組みを行っている。また、1年次後期には就職意識を高め、基本的ビジネスマナー習得を目的として「ビジネス能力検定」に関する講義の実施および検定合格を目標としている。そのほか各学科の主要専門科目においても、キャリア教育（仕事力の獲得）を盛り込んだカリキュラムとして実施している。更に、夏季および春季には企業研修への積極的参加を呼び掛けており、企業での実務、実地を経験することにより学生自身のキャリアデザインにも役立てるよう取り組みを推進している。

### 【企業研修コンセプト】

これは、本校への求人票提出企業を中心に、設計、施工、インテリア、大工技能、製造関連等々の企業群を抽出し、これらの企業へ学生が赴き実業務の一端を経験するという職業教育の一環として行っている。本校における企業研修のコンセプトは「実体験」であり、机上の勉強や研修は求めている。社員の方が日々行われている業務を体験し、その厳しさや難しさ、そして面白さややりがいを感じることを目的としている。

### 【研修概要】

#### 『企業研修（夏期）』

- ・期間／令和4年8月22日～令和4年9月16日の間（研修期間：概ね3日間～2週間程度）
- ・研修実施社数／70社（全体研修賛同企業社数／173社）
- ・研修参加学生数／119名（延べ参加学生数125名）
- ・研修参加形態／任意
- ・単位認定／あり

#### 『企業研修（春期）』

- ・期間／令和5年2月13日～令和5年3月31日の間（研修期間：概ね3日間～2週間程度）
- ・研修実施社数／50社（全体研修賛同企業社数／225社）
- ・研修参加学生数／60名（延べ参加学生数73名）
- ・研修参加形態／任意
- ・単位認定／あり

### ●進路支援への取組

本校では、クラス担任に加え進路支援室職員が、直接学生に就職や大学編入等にあたっての基礎知識や活動方法、企業、編入先の選び方、履歴書をはじめとした各書類の作成方法、面接の受け方までを指導する体制をとっている。1年次の後半に学科別進路ガイダンスを開催、更に、担任・進路支援室職員・学生の3者面談の実施により学生ひとりひとりの希望進路を確認した上で学生個人の就職カルテを作成している。その内容により活動時期を大きく3つに分け、

学生個々に応じたスケジュールを組み進路指導を行っている。本校の進路支援は、個別対応を基本としており、学生が思い描いている将来の実現へ向けて取り組む体制を整えている。

#### 【就職支援コンセプト】

学生が就職活動を行なうにあたり、これを促進する意味とより深く企業・仕事について深い知識を得るために学内及び求人企業先での会社説明会、職場体験会を学校主導で開催している。前年度においては、学内説明会【下記※1】、企業側での本校単独説明会・見学会【下記※2】を開催した。そして、この中から多くの学生が内定を獲得しており、企業や仕事を知る機会の一つとして、今後もより積極的に開催していく。

#### 【学内説明会実施企業】 ※令和4年度実績

(株)浅沼組、須賀工業(株)、日本メックス(株)、パナソニックアーキスケルトンデザイン(株)、鉄建建設(株)、(株)TAK システムズ、(株)悠建設、(株)フジキン、(株)松井建設、住友電設(株)、清水建設グループ、(株)長谷工設計、(株)アルモ設計、(株)ラフト、大和ハウス工業(株)、(株)フジタ、旭化成住宅建設(株)、(株)西原衛生工業所、(株)大和ハウス工業、奥村組土木興業(株)、(株)河村建築事務所、関電ファシリティーズ(株)、他

#### 【本校単独説明会・見学会実施企業】 ※令和4年度実績

(株)UR リンケージ、(株)現代総合設計、(株)内藤建築事務所、(株)セブン建築事務所、カワサキロボットサービス(株)、大阪シーリング印刷(株)、(株)小笠原設計、(株)西村製作所、(株)TAK-QS、(株)鍛冶田工務店、(株)クボタ機械設計、泉北ホーム(株)、日本建設(株)、(株)大林ファシリティーズ、(株)鳥羽瀬社寺建築、(株)大彦、GMB(株)、三井化学(株)、(株)阪南設計事務所、三井純 アンド アソシエーツ建築設計事務所、他

## (5) 様々な教育活動

### ●学校行事への取組状況

本校では校外実習、現場見学会、作品展示会、講演会、リクリエーションなどの学校行事に取り組んでおり、とりわけ各学科主催によって旺盛に行われている。その取組は、本校のホームページ上の「OCT ブログ」等で常に外部に発信している。

### ●部活動、放課後活動、生徒会活動等の状況

本校学則第1条の教育目的達成にかかわる課外活動の重要性に鑑み、「学生の課外活動に関する規程」により学生個人の活動、学生団体の設立などを規定している。

また、大阪工業技術専門学校学生自治会を組織し、毎年有志によるスタッフとその中から選出された自治会長と共に、諸活動を行っている。学生生活の改善・活性化に関わる自治活動の他、自治会主催による校外見学会やスポーツ大会、卒業生のための感謝パーティなども企画・実施している。また、自治会からの一部支援による以下の部活動・同好会活動も行っている。

- ・体育会系：バスケットボール等のサークル
- ・文化会系：ロボット研究部、建築技術研究会、写真・まち探研究等のサークル

#### ●家庭・地域・企業等との連携による取組、他の学校との連携による取組等の状況

本校では、企業の現場見学会・企業講師による特別講義など、企業等との連携による取組を積極的に行っている。企業人との関わりによって、仕事のリアルを学生たちに体感してもらうと共に、広く社会貢献意識の涵養も目指している。また、ASR (Academic Social Responsibility) 社会貢献活動として、児童を対象にモノづくりの楽しさを体験してもらう「モノづくりワクワク隊」や、青年を対象に「建築巨匠作品模型・図面」の出前展示会、「風土と建築」と題する出前授業などを実施している。建築やモノづくりの楽しさを通じて職業意識の向上を図れるよう支援するこれらの活動は、地域の団体様、小学校、中学校、高等学校などとの連携によって進めている。

## (6) 学生の生活支援

#### ●学生支援の方針

本校は自立した職業人を目指すための高等教育機関であり、各業界の専門知識や技術はもちろん、設計力を身につけることによって得られる仕事力をもつ人材育成を行っている。日常的な指導については、各クラスに担任を1名配置しており、学生の自立を支援する存在として学生の個性に応じたきめ細かな指導を心がけている。また全ての授業において専門性の獲得のみならず、職業意識・問題解決能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力、時間管理や納期意識など職業人として基礎となる主体性や自立性の獲得を目指した指導を行っている。

#### ●学生支援の取組状況

昼間部学科では週に1限、クラス担任が担当する「キャリアデザイン」の時間を設定しており、入学時に全員に対する個別面談、各業界案内や職業ガイダンス、各種資格の体系理解や取得のための支援、就職活動に必要な心構えや面接等の具体的対策を行っている。また、学生個々に対して、日々の出席や成績状況を基に進級や卒業に向けての指導をきめ細かく行い、欠席や成績不良等による問題が予見される場合には本人に対する直接指導を行うと共に、保護者への連絡及び状況報告を以って中途退学の防止に取り組んでいる。更には、年に1度若しくは2度の保護者会を開催し、各クラス担任による個別面談で様々な相談にも応じている。尚、心のケアに対しては福田学園学生相談室を設置し、専門カウンセラーにて対応している。

## (7) 学生納付金・就学支援

#### ●就学支援制度、及び案内

『高等教育の修学支援新制度（認定校）』：経済的困窮者には段階的な入学金と授業料の免除

あり、奨学金の給付がされます ※審査には家計状況だけでなく学業成績の一定基準あり。  
《詳細》 [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/hutankeigen/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm)

『OCTドリームサポートプラン』: 高校在学時に日本学生支援機構の奨学金（予約採用）決定者を対象に、入学手続き金の一部、及び入学後の学費を分割にて納付できる制度。

『リカレント生対象学費支援（減免）』: 大学・短大・専門学校（専門課程）を卒業の方、又は社会人（20歳以上）として経歴を持つ方を対象に学費の一部を減免する制度。

『在学生対象学費支援（減免）』: 入学後の成績優秀者に対し、進級時点に於いて年間授業料の一部を減免する制度。

『経済的理由者学費支援（減免）』: 入学後に家計急変等の理由により修学が困難になった者に対して授業料の半額を減免する制度。

『日本学生支援機構奨学金』: 入学後に本校での推薦のもと、奨学金の貸与ができる制度。

『学費の分納・延納』: 入学後の学費納付に困難がある場合、相談により分納もしくは延納の対応措置。

その他～『国の教育ローン』や『福田学園提携オリコ学費サポートプラン』の案内。

※学生納付金等は、(2-②) 項でリンク先を記載。

## (8) 学園の財務（令和4年度）

●貸借対照表（下記、リンク先アドレス）

[https://www.fukuda.ac.jp/data/disclosure/r4\\_business\\_report\\_06.pdf](https://www.fukuda.ac.jp/data/disclosure/r4_business_report_06.pdf)

●資金収支計算書（下記、リンク先アドレス）

[https://www.fukuda.ac.jp/data/disclosure/r4\\_business\\_report\\_05.pdf](https://www.fukuda.ac.jp/data/disclosure/r4_business_report_05.pdf)

## (9) 学校評価

●自己点検評価、及び学校関係者評価の結果

情報公開（下記、リンク先アドレス）の『自己点検評価・学校関係者評価』欄

<https://www.oct.ac.jp/other/provisioninformation>